

令和3年度 行政改革審議会（外部評価） 議事録要旨

日 時	令和3年11月1日（月）午後1時25分～3時40分	
場 所	市役所 本庁舎災害対策本部室	
出席者	委 員	（グループリーダー）齊藤由里恵、遠藤昌代、加藤研一、河田光司、高松淳也
	担当課	【がんばる中小企業応援事業】 商工課長、商工課主幹、工業労政係長、商工課担当 【下水道接続の促進（下水道維持管理事業）】 下水道課長、下水道課課長補佐、排水設備係長、下水道課担当
	事務局	行革・政策監、経営情報課長、経営情報課主幹、経営情報課（業務改革係長、丹原、中川、永野）
次 第	1 行革・政策監あいさつ 2 外部評価の進め方について 3 外部評価 （1）がんばる中小企業応援事業 （2）下水道接続の促進（下水道維持管理事業） 4 振り返り	

- 1 行革・政策監あいさつ
- 2 外部評価の進め方について
（事務局説明）
- 3 外部評価
（1）がんばる中小企業応援事業

・委員

ここから議事進行を務めさせていただきます。今、ご説明いただいたように、この外部評価というのは担当課の職員では気付かないような点を、委員皆様のそれぞれのお立場でお気づきの点等について意見をいただき、事業の推進や市政運営へとつなげていく観点のものでございますので、委員の皆様におかれましては、建設的なご意見をよろしくお願いいたします。

また担当課の皆様におかれましては、私たち委員の質問や意見というのは、皆様のやってきたことに異議を唱えるといったものではございません。一緒に作り上げていくという観点から質問をさせていただきますので、答えについては簡潔に、そしてありのままにお答えいただければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

それでは1事業目「がんばる中小企業応援事業」の外部評価を始めさせていただきます。事業説明を10分以内でお願いいたします。

（商工課説明）

- ・委員

それでは、今の説明につきまして、皆様からご質問・ご意見等を頂戴したいと思います。ご質問のある方はいらっしゃいますか。

- ・委員

カーボンニュートラル推進の1つのやり方として考えられるのが勉強会への支援になります。立ち遅れている中小企業がたくさんいると思います。設備投資だけに絞るのではなく、例えばコンサル料の負担など、まずは勉強に対する支援が大事なのだらうと思います。

大手企業は先進的に取り組んでおられますので、そうした企業が取引先・仕入先になっている事業者は、そこから教育を受けられると思いますが、一般的な中小企業や親会社の関心が低い場合は勉強も必要な要素になってくると思います。その辺りいかがでしょうか。

- ・商工課

委員がご指摘されましたように、いきなり設備投資というのはハードルが高いと私どもも考えております。そこで、私たちは取りかかりとしてセミナーという形で始めたいと考えております。それから、カーボンニュートラルに先進的に取り組んでおられる大手企業の先進設備を見学し、事業者と情報交換もしております。今後、中小企業に展開をしていくために情報を収集して中小企業の発展につながるようなセミナー・勉強会の取組に活かしていきたいと思っております。

- ・委員

大手のメーカーから情報を得られて、カーボンニュートラルへの対応を求められている事業者は、市内の中小企業の中でどのくらいの割合になりますか。

- ・商工課長

中小企業コーディネーターがヒアリングをしておりますが、一般的に、トヨタ自動車はティア1（完成車メーカーに直接部品を供給する企業）の事業者に対して、CO₂排出量の前年比3%減を要求しているようです。しかしながら、ティア2（ティア1メーカーに部品を供給する企業）以降の事業者に対しての要求は明示されておりませんので、大半の事業者について、どれだけのCO₂排出量の削減を求められているのかについては、まだ情報が入っていない状況です。今後は情報収集をしていく中で、情報提供ができるかと思っております。

- ・委員

市の政策を効率的に進めていく上では、任せておけば十分であるという企業もありますし、逆にそうでないところはこちらから積極的に声かけして取り組んで

いかないといけないので、そういう棲み分けを意識しておかないと、全事業者に対して支援を行っても効率が悪いかという気がしましたのでお伺いしました。

- ・委員

大切な事業だと思います。大手企業は取り組んでいますが、中小企業に対しては支援が必要であると理解しております。

活動指標と成果指標を見ると、令和2年度から令和3年度では件数がそれぞれ減っており、「補助金を活用した事業者の数」では、235者から200者と減っております。これはどうしてか率直に思いましたので、その辺り教えていただけますでしょうか。

- ・商工課

成果指標は、令和2年度は実際に活用した事業者の数になっています。令和3年度、4年度につきましては、予算の制約もありますので大きな増加は見込めないだろうと考えております。したがって、現状規模の事業をこのまま展開をするということであれば、今後の実績見通しについては令和2年度から横ばいでおおむね推移するだろうと整理しております。

- ・委員

全体の仕組みについて教えていただきたいです。事業評価シートの活動実績の令和2年度の欄で、いろいろな事業が挙げられています。全体で4,000万円ぐらいの予算ということですが、これは事業ごとに予算が決まっているのでしょうか。また、毎年財源が上下すると思うのですが、例えば来年度でしたら4,000万円を超えた段階で打ち切りということになるのでしょうか。

- ・商工課

始めに、事業ごとに予算を確保しているのかという点ですが、全体でいくらかという形で予算づけがされております。次に予算を超えた場合の対応につきまして、原則は予算の範囲内で補助を行います。年度途中であれば、さまざまな財政的な協議を踏まえ可能な限り対応できるよう取り組んでおります。

- ・委員

新しい事業としてカーボンニュートラルのメニューを入れる場合は、他の事業が縮小される可能性があるということでしょうか。また、他の事業で予算が足りなくなった場合は早期に打ち切られる可能性も出てくるのでしょうか。

- ・商工課

これまでの事業についても引き続き継続する必要があると考えております。カーボンニュートラルに対しても当然取り組んでいくとすれば、効率化を図りつつ他の支援メニューに影響が出ることは避けたいと考えております。

- ・委員

安城市が非常に積極的に取り組んでいるのは分かりますが、他市との比較など客観的な位置付けが分かりません。他市と比較した安城市の取組状況のような客観的な指標は持っていますか。今は把握していなくても今後検討していく余地があるのかもお聞きしたいです。

補助金の申請が得意な中小企業ではがんばる中小企業応援事業に毎年のように申請している企業もいます。一方で、全然申請しない会社もあります。昨年度、補助金を活用した事業者 235 者の中に繰り返し申請している会社がどのくらい入っているのかお伺いしたいです。

- ・商工課

1 点目の他市との比較などの客観的な指標は持ち合わせておりません。しかし、事業を検討する際には、周辺市の情報は参考にしております。それから、ABC（安城ビジネスコンシェルジュ）において市外の事業者から声を聞く機会もあります。また、事業者から「安城市にはがんばる中小企業応援事業補助金があって羨ましいですね」というお褒めの言葉をいただいたことがあると中小企業コーディネーターから聞いています。

次に繰り返し申請している会社の数についてですが、昨年度の補助金交付件数が 405 件、これは補助金の交付件数になります。昨年度補助金を活用した事業者数が 235 者ですので、単純計算で 1 つの会社が約 2 回使っているということになります。補助事業の PR は、商工会議所の会報への折り込みや商工会議所が開催する会議に出席し、その場でパンフレットを配付するなど行っています。

そもそもこの補助事業の趣旨はがんばる企業を応援することであり、補助金を使わなくても成長できる事業者においては、そうしていただきたいと考えております。一方で、こういった補助金を使って成長するのも一つのやり方であり、各企業の経営のスタイルや経営者のお考えもあろうかと思えます。私たちとしては、地道にこうした対応ができるような体制をとっていきたいと考えております。

- ・委員

今の回答に関連してお伺いしたいのですが、令和 2 年度では 235 者が補助金を活用しました。この補助金の対象とされている事業者の何パーセントくらいにあたるのでしょうか。

- ・商工課

経済センサスの結果では市内の事業所数はおよそ 4,000 者強と聞いていますので、235 者となると約 5%になると考えております。

- ・委員

もう1点お伺いします。この事業の趣旨や中身も理解できましたし、また、カーボンニュートラルに対応するため新しく拡張していきたいということは理解できました。

しかし、新しい事業にチャレンジしようとした場合、今のメニューで対応しきれっていない部分もあるかと感じました。そのため、メニューの数を増やすというよりは、使い勝手を良くして新しいことにもチャレンジできるようなメニューをそろえておく視点も必要と感じました。

また、成果指標が「補助金を活用した事業者の数」となっており、悪くはないと思いますが、アウトプット指標かと感じる部分もあります。アウトカムという視点から、これを使ってどうなる・なった・なりそうかということがすごく重要だと思います。そこが分かると、何を求められているのか、どこにどういう支援をするとよりうまくいくのかも分かってくると思います。成果指標を検討するにあたってどのような指標が適切か商工課で検討したことがあるかお伺いしたいです。

・商工課

最初のご指摘、新事業へのチャレンジについて皆さんに配付した資料の中に、新ビジネス支援事業というチラシを挟み込んであります。この事業がまさに委員が指摘された新しい分野への取組を後押しするため、今年度から取組を始めました。このメニューの幅や使い勝手は、まだまだ改善する必要があるかと思いますが、新しいことへチャレンジする企業への支援は、こういった事業で今年度から取り組み始めたところです。

次に成果指標がアウトプットという御指摘につきまして、私どもが外部評価を受けるにあたって議論をしてきたところです。委員がご指摘されたように、成果指標「補助金を活用した事業者の数」は途中の数字であって、最終的に事業者が出した成果ではないことは重々承知をしております。しかし、400件の交付の中で、全事業者の成果を把握するというのも現実的ではないと考えております。また、補助金の実績報告には例えば求人であれば、今回は採用には至らなかったけれども、問い合わせが何件あったか、あるいはフォークリフトの研修で免許を取得して事業に役立った、といったコメントが寄せられています。

こういった成果が405件の補助金交付の裏側にあると解釈し、この実績の数字が事業者のがんばりの指標という整理をしております。

・委員

成果指標を検討することに時間を割くのは効率的と思いませんので、今のご説明で納得できました。しかし、業務改善に至ったとか、資格を取得できたというような成果をいくつかのカテゴリー分けして見える化しておく、今まで補助金

を活用してこなかった事業者もうまく使える機会が増えてくるのかと感じました。

時間になりましたので、委員の皆様には評価シートにご記入をいただきたいと思います。評価シートの記入が終わりましたら一言ずつ皆様方からご意見を頂戴したいと思います。

それでは、皆様から一言ずつコメント等を頂戴したいと思います。

- ・委員

コロナ禍がいつまで続くかわかりませんが、収益的に余裕がない中小企業は多いと思われます。カーボンニュートラルの問題は、収益に直結することではないため、インセンティブがないと後回しにされることが予想されますので、がんばる中小企業応援事業を拡充していくことが安城市にとっては重要であると感じております。

- ・委員

カーボンニュートラルに対する支援メニューを新たに導入することは賛成ですが、既存の事業の重要性が変わるわけではないと思いますので、カーボンニュートラル以外についても補助額の確保に努めていただき、しわ寄せがなるべく出ないように配慮しながら拡充したほうがよいと感じました。

- ・委員

特にカーボンニュートラルは、早期に真剣に取り組まなければならないと思っていますが、取組はまだまだこれからです。例えばこうした建物から排出される二酸化炭素の量を計測する方法ですら、まだ我々はわかっていないのが現状ですし、そうした中小企業も大変多いと思われます。カーボンニュートラルへの対応は経営者の考え方そのものが反映される部分だと思っていますので、ぜひ勉強会を拡充していただければと思います。

新ビジネス支援事業を改めて確認したところ、補助対象経費の中でシステム導入費というのがあります。システム導入は企業がこれから取り組んでいかなければならない分野だと思っています。その中で、特に力を入れていかなければいけないと思っているのがDXだと思っています。令和4年度にはぜひDXという切り口も入れていただけるといいかと思いましたので、よろしく申し上げます。

- ・委員

先ほど他の委員が指摘されていきました成果を見える化するのとはとてもいいことだと思います。事前の質問で、この事業の認知度について質問したところ「毎年、商工会議所会報にパンフレットを折り込みしており、おおむね認知してもらっていると考えております」という回答ですが、関心のある経営者は真剣に見られるでしょうし、自分とは関係ないと思われる経営者もいると思います。この事業の

認知度を上げるために補助金を活用して改善した例などが明確になれば、この制度を活用する中小企業がさらに増えてくると思いました。

- ・委員

それでは集計結果を発表します。拡充が4名、要改善が1名という結果で、評価結果は拡充となります。委員の皆様からさまざまな御意見等を頂戴しました。商工課におかれては、反映できる意見は反映していただき、より良い事業になるように願っております。

要改善と判定したのは私ですが、どんどんメニューを追加していくというよりは、もう少し整理した方がいいかと思いました。

市の事業では往々にして、一度始めるとなかなかやめられないものがたくさんあると思います。しかし、市の職員数が限られてくる中で事業を増やすばかりでは対応できない事情もあるかと思えます。そのため、そこをうまく整理しながら、取り組んでいただきたいという思いから要改善にさせていただきました。

所管課からの説明はとても分かりやすく、いろいろなところで意見交換されているという様子が伝わってきました。勉強会というご意見もありましたが、例えばDXに関しましては市でもまさに進めている最中かと思えます。行政も民間と同じように進めているため、例えば勉強会なども含めて、一緒にできることがあると思います。安城市内には大変優秀な事業者がたくさんあると思いますので、市と事業者でお互いの意識を高め合ったりする対応も十分可能な自治体だと思います。そういったところでの安城モデルみたいなものをぜひ形成していただきたいと思えます。

最後に1点お伝えします。大変分かりやすい御説明をいただいたのですが、市の政策の中で今回の事業がどういう位置づけであるのか少し伝わってこなかったです。おそらく総合計画等においても、環境や雇用が含まれていると思いますので、どのようにつながっているのか説明が少しあると、市民の方にも理解を示してもらいやすいかと思いました。

ますます安城市が活発になっていくことを願っておりますので、そういった支援になるようお願いしたいと思います。それでは1事業目の「がんばる中小企業応援事業」につきましては以上とさせていただきます。ありがとうございました。

(2) 下水道の接続促進（下水道維持管理事業）

- ・委員

それでは2事業目「下水道の接続促進」の外部評価を始めさせていただきます。
事業説明を10分以内でお願いいたします。

(下水道課説明)

- ・委員

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問のある方はお願いいたします。

- ・委員

公共下水道接続率一覧表について、結果から見ると、年数が経過すると接続率が高くなるということですか。

- ・下水道課

経過年数が多いほど接続率は高くなります。

- ・委員

供用開始してからの年数が長くなれば接続率が上がるなら放っておいても上がる気もするし、事業の成果を早く出すには、年数の短い区域の接続率を上げる必要があります。接続率の高い地域は働きかけを行っているためなのか、年数が経過すると自然に高くなるのか、その辺の見きわめを担当課として行っているかをお聞きしたいです。

- ・委員

放っておいても接続率が上がるのは、確かにそのとおりだと思います。

一方、早期に接続いただくことで良好な住環境を実現することが下水道事業を行う一番の意義であり、接続促進を今までずっと行っております。その成果が今ここまで上がってきていると我々はとらえております。供用開始から約10年間経過すれば8割くらいの方が接続している中で、残りの15%~20%は徐々にしか接続しないというのが体感としてあります。

- ・委員

年数が経過しても、例えば経済的な負担が大きいため接続できない人は年数とは関係がないです。接続率を上げるにはどうしたら一番効果的か考え直す必要があります。

- ・下水道課

年数が経過すると、家の建てかえが行われ下水道に接続されます。下水道の使用料の方がランニングコストは安いという試算をしております。接続率が上がらないのは接続するための初期投資がネックになるかと思っています。接続に対す

る補助金を交付する自治体も実際にはありますので一つの考え方とっていますが、安城市では当初の供用開始から28年間ずっと自費で接続いただいている中で、新たに供用開始する地域の人に補助金を交付することは、公平性の観点から難しいと考えております。

- ・ 委員

経済的な負担が理由であれば補助金を交付するしかありません。しかし、年数が経過すると家の建てかえが発生するため、下水対応の設備に代わるということですか。

- ・ 下水道課

どこまでの事業費をかけてどこまで接続するかのバランスを考慮しなければいけないと思います。供用開始後数年しか経過していない地域の人たちに積極的な働きかけを行い接続率を上げていくことが事業費と効果のバランスが一番良いと考えています。

- ・ 委員

ありがとうございます。その他皆様いかがでしょうか。

- ・ 委員

改善取組の欄に毎年の訪問を控えてほしいという要望があったため、令和元年度から変更しましたという回答が矛盾しているのではないかと感じました。接続を働きかけて、下水道の接続にはメリットがあることがしっかりと伝わるのであれば、むしろ来てもらったことに対して感謝されるのではないですか。

- ・ 下水道課

ご指摘のとおり、お顔を合わせた方に再び訪問することで覚えておいていただき接続につながったという例もございます。そのため、戸別訪問は大切な事業と思っています。一方で、見積書を取って検討いただくのに時間が1年弱ぐらいかかるため、検討中なのに話に来られてもと言われる方もいます。そのため、1年くらい間隔を空け少しトーンダウンした頃に訪問し、接続に対して意識を持つことができると思いました。訪問対象を供用開始後5年経過した全てから8年までの中で隔年に改善しました。対象件数を減らしているわけではございません。

- ・ 委員

わかりました。ありがとうございます。

- ・ 委員

この戸別訪問で接続に至った場合、例えば世帯の属性や家の規模、築年数などがわかれば、教えていただきたいです。また、下水道に接続しない直接的な原因の一つは補助金制度がないこともあり得ますし、接続するためには見積を取り工

事業者を選んで検討する行動に時間的なコストがあって踏ん切りがつかない、そういうものが改善するようなアイデアや説明の仕方があれば教えていただきたいです。

- 下水道課

まず接続していただいた建物は、耐用年数が十分残っているものであり、周辺の方が接続をされていると自分も接続しなくてはいけないと思われる方が多いと思います。

次のご質問について、戸別訪問において現状に対してさほど不満を持たず浄化槽をきちんとメンテナンスしていればいいでしょうと言われます。市全域に下水道を供用するわけではありません。そのため、浄化槽を否定することもできませんので、浄化槽はいつか耐用年数が来るので下水道接続の検討はしてくださいという説明をしております。

- 委員

ありがとうございます。

- 委員

一つ目は、下水道の接続とは、本管から自宅まで引くことを指していると思いますが、近隣でまとめて接続工事を行うと工事費が安くなることはあるのでしょうか。工事業者も重機を1回持って行けば、一遍に掘ることができるかと思って質問しました。

二つ目は、指定工事店の協力を得てと書いてあります。工事業者も忙しいため営業活動までなかなかできないと思いますが、市の職員が動くよりは、一緒に工事を行うと費用が安く済むとセールストークがあれば接続につながりやすいかと思えます。

三つ目は、事業費のところで人件費の630万円が0.8人で掛けてありますが、市の職員1人弱関わるという計算式の考え方でいいのでしょうか。また、戸別訪問は実際1人の職員が行っているのでしょうか。

- 下水道課

一つ目のご質問について、安城市では1宅地に1か所は市の費用で取付管工事を行っています。他市では本管（下水を流す管）を整備する際に既設建物を接続するための取付管工事までは市が行いその後、供用開始されてから接続する場合は個人負担とする事例もあります。安城市は、各家庭の状況に配慮し状況が確定しない中で、先行的に取付管工事を行わず、いつでも接続してくださいとアピールしております。

二つ目のご質問について、近隣と同時に下水道工事（宅内の工事、公共ますの

工事)を行う場合、重機を持っていくのが1回で済みますので、工事費が安くなりますよという話は指定工事店から聞いたことがあります。市で業者のあっせんはできませんが、お隣さんと一緒に工事を行うことを業者に相談していただければ工事費が安くなるかもしれません、とお話することもあります。工事店の力も借りながら、下水道の供用エリアの接続数を増やしていきたいと思っております。

三つ目のご質問である事業費についてお答えします。0.8人というのは接続促進に係る入力業務、図面作成、戸別訪問等の時間数を積み上げて算出しており、排水設備係4人で戸別訪問をしております。

・委員

事業者には協力を依頼し積極的に取り組んでいただければ、この人件費も訪問件数自体も減るのではないかと思った次第です。一軒一軒事情が違うので、市の人が行かないと難しいのかと思いますけど、市の予算をどれぐらい使うのが適正なのかという観点で質問させていただきました。郵送に関しては費用も知れていますので、どんどん取り組まれたらいいと思います。

・委員

下水道の宅内工事は30万円～40万円くらいの工事費がかかります。それに対して例えば、ローンで負担を軽くするような取り組みをしていますか。

・下水道課

関連事業に水洗便所改造資金融資あっせんの制度があります。下水道が使える区域になった日から3年以内の世帯を対象に原則50万円まで銀行から借りた場合に利息分は市が払いますという制度を設けています。近隣市も同様の制度を設けております。

・委員

実際の利用状況はどうか。

・下水道課

現在利子の補給を行っている件数は4件です。

・委員

そんなに少ないのですか。

・下水道課

そうですね。申請自体、年に1件あるかないかが実情です。

・委員

下水道を接続するために30万～40万円かかるのは高いと誰でも言います。私は費用がネックになっているのかと思って聞きました。5年のローンで金利がゼロであれば、よほど接続できると思います。それだけでもまだ住民の方は接続しま

しょうとはならないのですね。何が一番ネックになりますか。

- 下水道課

平日の昼間に回ることが多いので、ご高齢の方に聞き取ることが多くなりますが、今後の建物の使用方法が確定しない、跡継ぎもいないし、私たちが何年ここに住むかわからない、そこに対して、1口50万円の金額はなかなか出せないと言われる方が多いです。

お金がなくて接続できないというよりも、今後の家の使い方が定まらない方のほうが声としては多いかととらえています。

- 委員

委員のご質問にもあったように、未接続の理由がよく分析されていないのではないか、各担当はそれぞれ行った感触では理解していますが、あまりよく分析されていないのではないかと思います。口頭では負担が大きいと言っている、裏にある事情は跡継ぎがいないとか、次の世代、若い人が帰ってきてから決めればよいという意見が多いのは、他市からも聞いています。

そういう理由が多いと、例えばいくら融資をします、補助金を出しますって言っても全然進まない話です。何が未接続の理由になっているかを今一度分析をしていただくと、接続したいが、できない状況がある人たちに何をすればいいかという案が見つかってくるかと思いました。

水洗便所改造資金融資あっせんの制度、利子負担の話がありましたけど、3年以内と質問の回答でもお伺いしていますが、多分その3年というのは、下水道を供用開始して3年以内に接続することを根拠に3年としています。用意していた資料を見ると、3年を超えてもかなりの方が接続していないという状況があります。合併浄化槽という話も出ましたが、そろそろ耐用年数（約30年）が来るような世帯もあるとか、その中には工事費の50万円の用意が難しいという世帯もあるなら、3年の期限をもう少し広げることによって何かできないかということは、ちょっと感じるころがありました。

一番の問題は環境への負荷を考えると単独浄化槽だと思います。単独浄化槽は設置できなくなってから20年ほど経過しています。そろそろ家屋の状況とか改修が必要になるかもしれないので、3年のところを見直すなど、下水道課の中で何かアイデアが出ていますか。

- 下水道課

ご指摘のとおり3年の縛りを外すことも一つの検討事項かもしれないですが、その辺に考えが及んでいないのが現状です。今後は他市の状況を調べてできることをいろいろ考えていきたいと思っています。まずは調査を進めていきたいと思いま

す。

- 下水道課長

いろいろヒントをいただきました。これまでは戸別訪問において、こちらがおすすめる内容ばかりで、相手から例えば浄化槽を設置して何年になるかなど、聞き取るようことはしていなかったと思います。聞き取ったことをもっと分析に生かせるよう、例えば合併浄化槽の年数や家族の構成など、どこまで聞けるかわかりませんが、そういう意思を持って分析に活かせるような戸別訪問が今後できればと思います。

- 委員

合併浄化槽の所管課は違うのですね。汚水処理という点では一緒ですが、所管課が違うことで多分データもお互い共有していない、そこら辺をうまくできるといいかと思います。先ほど御説明いただいたように、きちんとメンテナンスをしていることが前提になる、ここがポイントと思うので、今後、例えば高齢者が自分で維持管理していくことが負担になるため、下水道に接続した方が負担は少ないことを伝えるなど、いろいろアイデアはあると思います。

ここからは評価シートの記入をお願いしたいと思います。今回も先ほどの事業同様に皆様からひと言ずつご意見を頂戴したいと思いますので、よろしく願い致します。

- 委員

それでは皆様からの評価コメントをいただきたいと思います。

- 委員

下水道に接続するにはお金がかかることが障害になってると思いがちなんですが、実は他の要因、手間がかかることの他にご家庭の事情や代替わりの事情などお金以外の面をもっと掘り下げる必要があるかと思います。お金以外の阻害要因の改善に取り組まれると、より接続率が上がるのではないかと思います。

- 委員

何かをおすすめる際に、こちら側に自信がないと相手に伝わりません。公共事業に対して皆さんの生活をより良くするために信念を持って説得できると良いと思います。お金がかかってしまうから申し訳ないという気持ちが入ると迫力がなくなってしまいます。失敗するケースは、入口に入った瞬間から腰が引けて、考えておいてくださいと言って帰ってしまうパターンです。タイミングが必ずありまして、毎年顔を合わせたくないという方も、たまたまタイミングが合うと、やはり接続しようとか時間軸とともに気持ちが180度変わる方もいますので、あ

きらめずに取り組んでいただきたいと思います。

・委員

市の職員は下水道事業全体の検討を行うなど忙しいと思うので、戸別訪問の負担が減るよう例えば指定業者に行っていただくなどの仕組みづくりができるとうれしく感じました。

・委員

指定工事店も忙しいと思いますので、セールスを行うのは難しいのではないのかと感じています。

下水道に接続していただくために、いろいろな分析や金利を補助する場合に弾力的な対応をしてはどうかと思います。

町内会でも排水溝やU字溝の状態から下水道に接続をしていない家は類推できます。対応を促すために市の職員と町内会が一緒に行くことで、本人がやる気になってくれれば良いことだと思いますので、協力させていただくつもりはあります。こうしたことを、やり方として今後取り入れていただければと思います。

・委員

皆様ありがとうございました。それでは集計結果を発表します。要改善が5名で、結果は要改善となりました。

皆様からいろいろなアイデアが出たり、またご協力もできるという力強いお言葉もあったかと思います。下水道課でいろいろと検討をいただき、接続につながる取り組みとなることを期待しております。

接続率が上がらないということは、今接続している方への負担をお願いするか、もしくは市からの持ち出しをすることにもつながるかと思います。そのため、下水道が整備されている地域の方の接続推進は必須だと思います。市の皆さんは営業が得意ではないと思いますので、民間事業者や下水道工事指定業者にも何かメリットになること、例えばインセンティブをつけられるところはないか、そういった観点でも結構ですので、幅広く検討いただければと思います。

委員から指摘があったように、なんとなく腰が重いという方もいると思いますので、ワンストップでできる仕組みなどいろいろな方向からお考えをいただくということが重要と考えます。

それでは2事業目の下水道接続の促進については以上とさせていただきます。ありがとうございました。

以上で外部評価は終了いたしましたので、事務局に進行をお返しします。

4 振り返り

(略)